



社団法人 日本原子力学会

(社) 日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の広範囲にわたる、学術・技術専門家集団として、社会への情報提供を行うため、本会の主要な動きについて、随時プレスリリースを行っています。皆様におかれましても、原子力に関するお問い合わせや取材申し込みのご希望がありましたら、極力対応させていただきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

今回は、「第7回シニアネットワーク・シンポジウム」開催のご案内です。このシンポジウムは、原子力情報や、原子力技術が一般市民に受け入れられるためのコミュニケーションのあり方を様々な視点から考える場として、メディアの皆様にも、聞き応えのある内容だと考えています。趣旨とプログラムを添付しておりますので、是非ぜひご来場ください。

日本原子学会  
シニアネットワーク連絡会  
第7回シンポジウム ご案内

《概略》

日時：2008年3月4日(火)10:00~17:00 (開場 09:30)

場所：東京大学武田先端知ビル5階

共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会(EEE会議)

後援：日本原子力技術協会、日本原子力産業協会、日本原子力文化振興財団

テーマ：「原子力コミュニケーションのあり方を問う」

＝社会と原子力界との相互信頼を求めて＝

(詳細は、裏面をご覧ください。)



## 日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW) 第7回シンポジウム御案内

エネルギー安定確保と地球温暖化対策を大きな目標として我が国の原子力政策「原子力立国計画」が一昨年打ち出され、世界的にも「原子カルネッサンス」が原子力界に追風を送っています。しかし、わが国の社会では未だに、原子力に対する不安感と不信感が払拭されたという状況にはありません。今こそ、本音でコミュニケーションのあり方を議論されなければならないと考え、特別シンポジウムを開催することにいたしました。

記

日時：2008年3月4日(火)10:00～17:00 (開場 09:30)

場所：東京大学武田先端知ビル5階

共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会(EEE会議)

後援：日本原子力技術協会、日本原子力産業協会、日本原子力文化振興財団

テーマ「原子力コミュニケーションのあり方を問う」

＝社会と原子力界との相互信頼を求めて＝

開会挨拶(10:00～)

SNW会長 竹内哲夫

SNW他共催団体のH19年度の活動報告(～10:15)

SNW幹事 金氏 顕

第1部(10:15～12:00)：広報・報道を巡る基調講演と討論

座長：林 勉(エネルギー問題に発言する会代表幹事、元日立原子力事業部長)

◇「原子力の広報活動を振り返って—その課題および社会との新たな信頼関係づくりへの提言」

榊本晃章(東京電力顧問)

◇「報道における原子力の扱い方—”社会からの木鐸”と”社会への木鐸”という二つの使命をどう果たしていくか」

新井光雄(ジャーナリスト)

第2部(13:00～17:00)：パネル討論「原子力コミュニケーションのあり方を問う」

座長：宅間正夫(日本原子力産業協会顧問、元副会長)、パネリスト：榊本氏プラス下記の5名

13:00～15:00 各パネリストの講演、15:15～17:05 対談、フロアとの対話と討論、まとめ

◇「社会と原子力界との相互信頼を求めて」

竹内哲夫(SNW 会長)

◇「市民・生活者から見た原子力コミュニケーションのあり方」

犬伏由利子(消費科学連合会副会長)

◇「安全と安心の狭間—本物でありつづけること」

品田宏夫(刈羽村長)

◇「信頼され尊敬される規制当局の説明責任」 佐々木宜彦(発電設備技術検査協会理事長)

◇「市民と原子力専門家の「ダイアログ」実現へ向けて」 北村正晴(東北大学客員教授)

閉会挨拶(17:05～17:10) 金子熊夫(エネルギー戦略研究会会長、EEE会議主宰者)

なお、17時30分よりロビーにて立食懇親パーティを行いません。

<問合せ先>

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW) 幹事・金氏 顕(かねうじ あきら)

e-mail address : [akira\\_kaneuji@mhi.co.jp](mailto:akira_kaneuji@mhi.co.jp)、自宅TEL : 03-3414-8567、携帯TEL : 080-3201-7621